

5. 高香気性の根こぶ病抵抗性性ヒロシマナ新品種候補 「CR 広島 2 号（仮称）」の育成

1. 背景とねらい

ヒロシマナの産地では根こぶ病が問題となっている。本県では根こぶ病抵抗性品種「CR 広島 1 号」を育成したが、この品種の食味は従来のヒロシマナと同等であるものの、漬物加工後の香りが弱い。そこで、「CR 広島 1 号」と在来系統との交雑育種により、根こぶ病抵抗性で香りの強い品種を育成する。

2. 成果の内容

- 1) 「CR 広島 2 号」は、「CR 広島 1 号」と広島県内の在来系統との交雑由来系統から系統選抜法，母系集団選抜法により育成した固定品種（2007 年 12 月品種登録出願 出願番号第 21801 号）である（図 1）。根こぶ病抵抗性についてはセルトレイ底面給液法による幼苗検定と根こぶ病常発圃場での栽培試験により選抜を行い，香気成分についてはガスクロマトグラフィーで測定して，在来系統並みの香気分量を有する系統を選抜した。
- 2) 形態は，市販品種と比べて草丈，葉長がやや短く，葉肉が厚い（表 1）。
- 3) 根こぶ病抵抗性は，根こぶ病常発圃場での栽培結果から判断して，「CR 広島 1 号」と同程度である（表 1）。
- 4) 主要香気成分（3-ブテニルイソチオシアネートおよび 4-ペンテニルイソチオシアネート）は，「CR 広島 1 号」の約 2 倍量である（図 2）。
- 5) 漬物加工後の食味評価においては，「CR 広島 1 号」と比べて香り，うまみ，総合での評価が高い（図 3）。

3. 普及上の留意点

- 1) 「CR 広島 2 号」は根こぶ病の真性抵抗性品種であるため，根こぶ病常発地域で新規に栽培する場合は，前もって地域の根こぶ病菌に対する抵抗性を確認する。
- 2) 根こぶ病の発生地域では，圃場の排水性を良くし，直播きを避けるなどの耕種的防除法を組み合わせる。
- 3) 平成 20 年の秋作から種苗業者を通じて，県内および県外のヒロシマナ栽培地域に種子の供給を開始する予定。

（栽培技術研究部）

4. 具体的データ



図1 「CR広島2号」の育成経過

表1 「CR広島2号」の特性

品種・系統名	形態特性 ^z							根こぶ病抵抗性 ^y	
	草丈 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	中肋の幅 (mm)	中肋の厚さ (mm)	葉肉の厚さ (mm)	株重 (kg)	発病株率 (%)	病徴程度 の平均
CR広島2号	42.0 a	19.8 a	43.4 a	69.3 a	9.0 a	0.52 b	2.5 a	0.0	0.00
CR広島1号	46.5 b	18.3 a	48.1 b	69.8 a	9.4 a	0.44 a	2.8 a	2.5	0.03
広島菜 (T社)	47.6 b	19.4 a	49.6 b	71.3 a	10.1 b	0.44 a	2.8 a	100.0	3.00

^z試験場所：東広島市八本松町 播種：2006年9月8日、定植：10月2日、調査：12月12日。数値は40株の平均。Tukeyの多重検定により、異なる符号間で有意差(5%水準)あり。

^y試験場所：広島市安佐南区 播種：2005年9月20日、定植：10月26日、調査：12月26日。数値は40株の平均。発病株率は、病徴程度を根こぶの大きさで4段階(0:こぶなし, 1:小豆大まで, 2:空豆大まで, 3:親指大以上)に分類し、程度1以上の株の割合。

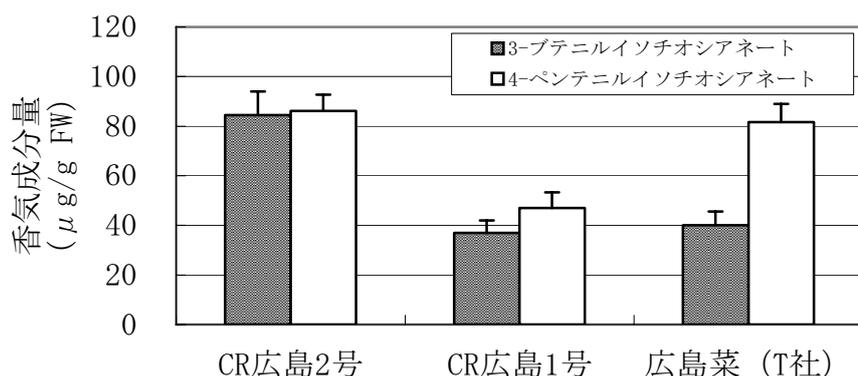


図2 「CR広島2号」の香気成分含量

試験場所：東広島市八本松町 播種：2005年9月9日、定植：9月29日、分析：12月20, 21日。縦線は標準誤差(n=20)を示す。

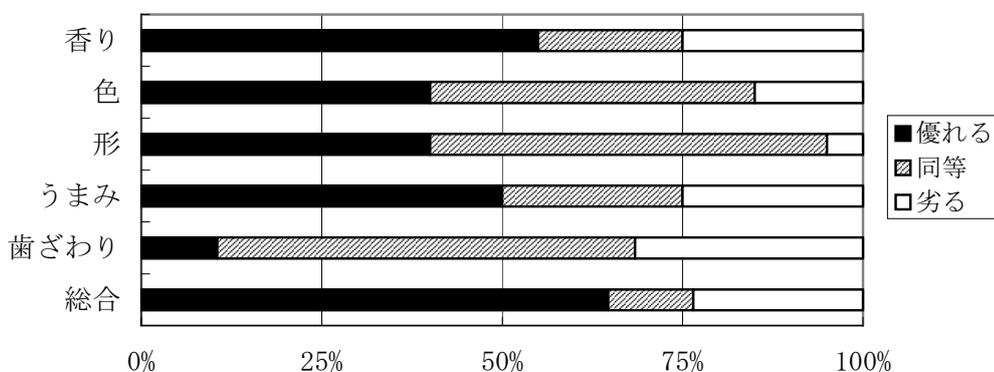


図3 「CR広島2号」の「CR広島1号」に対する漬物食味評価

21名のパネリストが6項目について5段階で評価し、「CR広島2号」の点数を「CR広島1号」の点数と比較して3段階(優れる, 同等, 劣る)に区分し、その割合を示す。食味評価に用いた漬物は、JA広島市菜漬センターで荒漬けを1日間、中漬けを2日間行った。